本覚寺々報

第36号
―発行日―
令和7年2月5日

ごあいさつ

住職　波多野　真公

『人間の八苦のなかに、愛別離苦これもっとも切なり』（覚如上人）

私は三人姉弟の末っ子で上に二人の姉がいます。上の姉は本覚寺副住職としてお寺を支えてくれており、ご門徒の皆様にはすでにお馴染みの通りでございます。

さて一月十二日に姉の尚子が五十七歳で往生いたしました。若い頃東京で就職した折に体を壊し、こちらに帰って通院しながらぼちぼちと外で仕事をしていましたが十一日の深夜に救急搬送されそのまま帰ることはありませんでした。

お寺の仕事に関わっていなかったので新聞のお悔み欄に近親者のみと書きましたが、お通夜には思った以上の方がお参りくださいました。

後になってあの時もっとああしていれば、こうしていればと後悔が襲ってまいります。従兄弟の先輩僧侶に「尚子ちゃんにとってはこの世のご縁が途切れたんだよ」と言われて今はお浄土に生まれて好きだった美しい花々に囲まれて苦しみもない安らかな世界に包まれている様子を想像して少しだけ気が楽になりました。

どんなに親しい人とも必ず別れの時がやってきます。少しでも後悔の無いように日々お念仏の生活を送って頂きたいと念じております。

かけがえのないいのちです。皆様方も御身くれぐれもお大切に。

聖地参拝

～信州信濃善光寺の旅～

六月四、五日と長野県へ行ってきました。北陸新幹線に乗り、まずは本願寺長野別院に参拝。深谷山蓮華院正法寺または普門山とも称し信濃国水内郡（現在の長野市若槻）見登山城主、和歌月石見守の次男、和歌月重勝を開基としています。その重勝は、越後より関東に向かわれる途中の親鸞聖人に出会い、法名釋證誓を頂いたとされています。その後移転などを繰り返し、大正十四年に諸般の事情により正法寺から、西本願寺の直属寺院、本願寺長野別院となりました。参拝後は北斎館、若松院を見学し、北斎の絵や八方睨みの鳳凰など様々な宝物を拝観しました。

善光寺は一光三尊阿弥陀如来をご本尊として、創建以来約一四〇〇年の長きにわたり、阿弥陀如来との結縁の場として深く信仰されています。特定の宗派に属さない無宗派で全ての人々を受け入れる寺として全国に知られていますが、その運営は天台宗と浄土宗の両宗派によって行われています。この地には親鸞聖人ゆかりの物があります。本堂の正面の華瓶に生けられた一本の松、これは親鸞聖人が参拝された際に奉納されたと伝えられています。「親鸞聖人お花松」と呼ばれており、この松を見た一茶は「蝶行やしんらん松も知った顔」と、「親鸞」と「知らん」をひっかけて句を読んだそうです。「お戒壇巡り」では、自分の手が見えないほど真っ暗で道中には「極楽の錠前」があり、この錠前

に触れることでご本尊と縁を結べると言われています。最後に仲見世通りで一味・七味唐辛子や、お焼きなど様々な名物を楽しみました。また次回の聖地参拝も是非ご参加ください。　（園倉）

本年度は福井組の御同行と合同で御本山の念仏奉仕団に参加します。五月二十九、三十日になりますので、是非お誘いあわせの上ご参加ください。詳細は追ってご案内いたします。

～。～。～。～。～。～。～。～

聖徳太子尊像御開扉法要

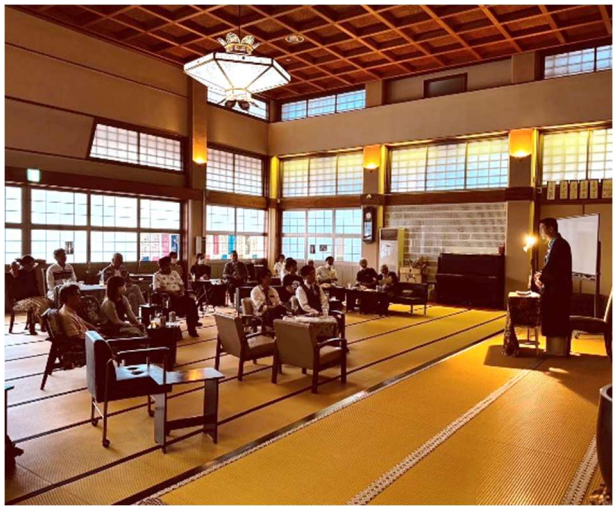
聖徳太子孝養像は、太子が十六才の頃、父である用明天皇の病気の平癒を願う姿を表しています。鎌倉時代の物で秘仏とされ、普段は本堂右余間、向かって左側のお厨子にご安置してあります。木造で像高は一三二・七センチ。ほぼ当初の状態を保った貴重な像で、脚部を差し込むめずらしい構造や後ろ姿などが、愛知の本證寺に伝わる聖徳太子像に酷似しています。それは本覚寺開基の信性という人物について、「三河国野寺本證寺末学」と伝える記録が残っていることから、この太子像を通して何か関係があるのではないかといわれています。これまで何度か博物館などに展示依頼を受けて出張することもありました。三十三年に一度の御開扉と言われ実際には数年経過しておりましたが、この度当山永代経法要と併せて、聖徳太子一四〇〇回忌ならびに聖徳太子尊像御開扉法要を執り行うことが相かないました。なかなかお目にかかれないとあってか、参拝の方々もまじまじと見入っておられました。

節談説教

今年の当山報恩講では、布教使に葦原理江師を迎えて節談説教をしていただきました。節談説教とは、言葉に節(抑揚)をつけながら、ジェスチャーで聴衆に語りかける伝統的な布教のスタイルで、講談や落語の源流であるといわれています。お話の中で葦原師は「肝心、要の御開山や先哲がたの教えやお言葉には節をつけます。何を言っているか分からなくても、節がついたらここが大事な所だと思ってください。そして語尾を長く伸ばしますので、そこでお念仏を申してください。これを〝受け念仏〟と言います」と、受け念仏を説明されました。落語や漫才でも笑いをとることをウケると言いますが、ここからきているそうです。続けて「このお念仏は私が催促しているんじゃないんですよ。阿弥陀様のご催促でございます」とお念仏申す本来の姿、意義を示されました。話し手と聞き手、双方が受け答えしアイコンタクトをすることでお聴聞やご法座がより深まっていくということにあらためて気づかされました。

葦原師は熊本教区芦北組覚応寺衆徒の本願寺派布教使。節談説教研究会会員で東保流説教「洗聲会」会員。現在「京都聞法お宿　砺波詰所(となみつめしょ)」所長として、住み込みで業務を行ないながら、布教伝道に勤めています。

坊主バーで人生語り合う



昨今、東京を中心に「坊主バー」なるものが流行っています。例えば東京四谷の坊主バーでは、午後七時～深夜一時の営業で、お酒を嗜みながら読経や法話を聞いたり悩みを相談したりして仏教に触れることができます。仕事帰りのサラリーマンやＯＬたちに人気のスポットなんだそうです。僧侶がお酒を提供するのは不謹慎だと思われるかもしれませんが、お酒は般若湯(智慧のお湯)といわれるのですから仕方がないですね。初の試みでしたが、約三十名がご参加くださいました。二十代～七十代と年齢層も広く、みなさん節度を守りつつお酒やソフトドリンクをお共に、御講師の先生のお話に耳を傾けていました。テーマは「終活と宗活～輝くいのち～」と題して、先生は分かりやすく丁寧に仏法を通して自分自身のいのちを見つめていくことが大切であるとお話しくださいました。その後、質疑応答では日頃の疑問や不安、わたしのいのちはどうなっていくのか、死んだらどうなるのか、というような質問がありました。普段は見て見ぬふりをするような蔑ろにしてしまう問題ですが、先生は熱心に親身になって答えてくださいました。また次回があるかは未定ですが、その時は是非ご参加ください。

流しそうめんで夕涼み

コロナ禍以来四年ぶりの開催となりました。私自身お寺に入って初の納涼会ということもあり、楽しみにしていました。仏壮の方々協力のもと全長約十メートル近い流し台が完成。私自身、本格的な流しそうめんは初めてでその迫力に圧倒されました。当日は雨もぱらつきましたが無事に開催。そうめん以外にも焼鳥やおにぎりなどが振舞われ、賑やかな会となりました。たくさん食べた後は、待ちに待ったくじ引きです。三十人程の子供たちがくじを引き、それぞれ当てた景品で楽しいひと時を過ごしました。コロナショックも落ち着き、以前のような賑わいがお寺に戻りつつあります。次回も是非ご参加ください。（園倉）

みんな、ほとけの子

赤ちゃんが生まれてきたことの感謝と健やかな成長を願い、お祝いすることはもちろんなのですが、阿弥陀様の「みな、わたしのひとり子」と願われているいのちであることを聞かせていただくご縁でもあります。こうして次の世代へといのちをつなぎ、おみのりが伝わっていくことを念じます。

越前市野岡町　髙橋いろはちゃん

新総代ご紹介

勝山市　齊藤　雅昭(72)

この度、新たに門徒総代に就任していただきました。齊藤氏は勝山市平泉寺町赤尾の道場役として、村の御同行を取り纏め、お寺の護持発展にご尽力いただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

仏教壮年会・婦人会　会員募集

壮年会、婦人会と聞くと年齢を気にされるかもしれませんが、特に制限はありません。若い方でも気軽に入会していただけたらと思います。活動内容は主にお寺の行事の準備や清掃作業。婦人会ではコーラスもがんばっています。そうしてお寺を身近に感じていただければありがたいです。懇親会も少しずつ再開しており、ご門徒同士の交流の場としても良い機縁になっています。

本覚寺合同墓　昨年末に完成

本坊墓地拡大とともに合同墓が完成いたしました。検討される方はご相談ください。合同墓の詳しい利用規約は別途ご案内いたします。拡大した新しい区画には、既に一般のお墓を立てられた方もおられます。こちらもご利用ください。

また寺務所の玄関に雪囲いを付けさせていただきました。雪の多い日は屋根からの落雪が危険でしたが、これでヒヤヒヤすることもなくなるでしょう。

僧侶のつぶやき

あるお家のお参りで、こんな可愛らしいお手紙とイラストをもらいました。覚えたてのいびつな文字ですが、「マンマンちゃんいつもありがとう」と読めます。こちらこそ、ありがとう。僧侶冥利に尽きますね。いや待てよ、学生時代にこんなことを言われたな。「ご門徒さんはあなたに頭を下げているんじゃない。袈裟、衣に頭を下げているんだ」と。たしかに、お勤めしてくれてありがとうの気持ちを込めて渡してくれたのだろうけど。本当に感謝されるのは私じゃなくて、君のおじいちゃんや仏様にありがとうやね。

チョット一服いかがです？

古儀茶道藪内流の本覚寺教室として、毎月約二十名がお稽古に励んでいます。ピリピリとした緊張感というよりは、お裏方さまと何気ない会話を楽しみながら、和やかな雰囲気の中お稽古が始まります。活動内容としては、市が開催するお茶会や毎年西別院報恩講でのお茶席などに参加しています。ご興味のある方はご連絡ください。

～。～。～。～。～。～。～

ごあいさつ　嶋田　順治法務員

皆様、こんにちは。私、令和七年の十二月末をもって本覚寺の法務員の勤めを卒業する事となります。約二十年超のお付き合い誠にありがとうございました。もっとも、地元でのお坊さんの活動は続きますので、またお会いすることもあるかと思います。早目のお知らせですが御同行の皆様、これからもお元気でお過ごしくださいますよう、また本覚寺をなお一層もりたて仏法繁昌を念じ申し上げます。　合掌

令和七年　年回法要表

一　周忌　令和　六　年歿
三　回忌　令和　五　年歿
七　回忌（令和　元　年歿
平成三十一年歿）
十三　回忌　平成二十五年歿
十七　回忌　平成二十一年歿
※二十三回忌　平成十五年歿
二十五回忌　平成十三年歿
※二十七回忌　平成十一年歿
三十三回忌　平成　五　年歿
五十　回忌　昭和五十一年歿

※印は地区によってされないところもあります

○令和七年の年回法要表です。お仏壇の過去帳・御位牌でご確認下さい。年忌申込の際は、**氏名・住所・電話番号　年回の種類・法名**を必ずお知らせ下さい。

○過去帳・御位牌の法名記入承ります。

○お念珠修理承ります。紐が切れて使えなくなっているお念珠がございましたらお気軽にお申し付けください。

寺だより

―おかたりさん―

子供の頃、お説教に来る布教使さんのことをそう呼んでいた。その頃お寺の本堂には高座があって、おかたりさんはその高座に上がって説教をした。子供だった私は普段本堂の隅に置いてある高座に登っては飛び降りてを繰り返して遊んだ。残念ながらお話を聴いた記憶はない。

音響設備が一般的でない時代、おかたりさんは少し高い所からお参りの人に向かって語りかけた。今は演台に立ちホワイトボードに要所を書きながらの講義スタイルが主だが高座の上では話術一本。それが話芸として発達し、そこから抹香臭さを取り除いたものが今の『落語』というわけである。

高座を下りたおかたりさんの控え間には次々と人が訪ねてきた。顔馴染みの門徒さん、感想を伝えに来る人、質問や人生相談まで。九十分のお座が終わってよく喋り疲れないなと思うがそこはおかたりさん、喋りのプロなのだ。

今は行列を成すほどはなくなった。人の付き合い方が変わったのか。〝目の前の賢い箱〟なぞなかった時代、情報は人から人へ。おかたりさんは重要な情報の源だった。

『節談説教』はかつての高座説教を復活させようというものだ。高座から本堂を見回し参拝者に向かって情感たっぷりに物語る様子にある方は「まるで私にむかって話しかけてくれているみたい！有難かった」と喜びの様子で仰った。

時代が変わっても語られるのは阿弥陀様の言葉。阿弥陀様のお目当てはわたしたち一人一人。さて次はどんな物語が聴けるだろうか。

また、ぜひ、お聴聞ください。

ホームページのご案内

http://hongakuji.gion-syouja.com/

パソコン用

モバイル用

令和７年　本覚寺行事予定

◆修正会	一月一日	流杯の儀	
◇御年頭	一月一、二日	十時より	
◆御正忌	一月十五日	十四時より	
◇門徒大会	二月五日	別途案内	
◆仏壮・仏婦合同報恩講	三月上旬予定		
◇勝山支坊太子講	三月三十一日	十時より	
◆花蓮の会	四月上旬予定	午前九時より蓮植替え	
◇花まつり	検討中	保育園・幼稚園・小学生、参加自	
◆念仏奉仕団	五月二十九、三十日	福井組合同	
◇懇親ゴルフコンペ	検討中		
◆降誕会・初参式	六月予定	別途申込	
◇勝山支坊永代経	六月三十日	十時より	
◆清掃奉仕	永代経前	仏婦	
◇掛所盆参り	七月十四日	十八時より読経	
◆永代経	七月十五、十六日	開闢法要	
◇納涼法話会	検討中		
◆清掃奉仕	報恩講前	仏婦	
◇報恩講	十月五、六日	本年度より日程変更	
◆勝山支坊報恩講	十月二十一日	十時より	
◇除夜会	十二月三十一日	二十三時四十五分頃	

【感謝録】

（敬称略）

お供え

菓子　塚谷　徹雄　北四ッ居
梨　鹿野　啓信　小塩辻
果物　今宮　忠夫　乙坂今北
酒　帰山　信勝　猪野口
朝田　勇次　春江
長谷川　光宏　宝永
米　齋藤　敏昭　舟寄
青木　保憲　東古市
野澤　雄一　東二ッ屋
坪川　良一　東諏訪間
川治　英一　轟
舟木　政美　大和田
山内　昭孝　里別所
清水　勲　大月
与佐岡　賢治　鯖江
田中　克治　重立
山本　清勝　笹尾
斎藤　治一　妙金島
前田　清司　阿難祖
菊川　嘉門　牧口
竹中　哲男　菅谷
冨田　幸二　上北野
ビール

寄贈

蝋燭　斉川　嘉長　光明寺

ご奉仕

蓮植替え　仏教壮年会、仏教婦人会
除夜会手伝い　仏教壮年会有志
帳場その他お手伝い　仏教壮年会、仏教婦人会
おみがき　年末　末政御同行

厚く御礼申し上げます。
ありがとうございました。

編集後記

今年はイベント目白押しでしたね。ただし、状況によっては今後の行事内容の改革も必要になってくると思います。変えるもの、変えてはいけないものをしっかり見極めながら、お寺とご門徒が繋がって、気軽に誰でもお参りすることができるお寺づくりを目指していきたいと思います。

（道場）

ここに第三十六号をお届けします。皆様方の寺報原稿お待ちしております。写真や絵、俳句などでも結構です。どうぞご投稿下さい。

発行所　浄土真宗本願寺派
和田山　本覚寺